

高齢者のアセスメント2（会話）

東海社会福祉科学研究所 大北 秀雄

高齢者の状況を把握するために、いろいろな方法で会話しアセスメント等を行っていると思います。現実の問題として、なかなか過去のことや現在の状況を把握することは、難しいのが現状だと思います。

会話を行うにあたって、相手の気持ちを少しでも理解するために、聴くほうの気持ちを少し整理することで、相手から内容を多く聴くことができるものと思います。

その整理の方法を、次のとおり考えて見ましたので参考にしてください。

I 「状況確認等」

1 「生き方」

- ①人としてどう輝いているか
- ②どう美しく見えているのか
- ③どう幸せを感じているのか
- ④どう生きてきたのか
- ⑤これからどう生きていくのか

2 「環境」

- ①どこで生活をしているのか
 - ・「都会」
 - ・「街」
 - ・「町」
 - ・「村」
 - ・「過疎地」
- ②だれがそばにいるのか
 - ・家族
 - ・知人
 - ・1人
- ③会話が成立するのか
 - ・頻度
 - ・内容

3 「制度」

制度をどう利用しているのか

- ・福祉
- ・年金
- ・医療
- ・地域特性

4 「役割」

社会の役割、家族の役割はどうか

- ・家族
- ・地域
- ・クラブ
- ・知人友人
- ・ボランティア
- ・制度による関係（行政、介護保険、医療機関等）

5 「状態」

- ・性格・健康状況
- ・外見および内面の姿
- ・現在の動きの状況

II 「見方・考え方」

その人がどう美しく（外・内）生きていくことできるのかを援助・支援していくものです。関係者は、それを担当するのですが、限度も考えて行動することが必要です。人によって、受ける方、行う方に「自我があってもしょうがない」です。ただし、それをどう理解・行動するかです。

1 「担当者としての考え方」

- ・自分の能力分析
- ・自分の性格
- ・自分の思いなど

を客観的に分析して行動する。

2 「ケアマネージャーとしての考え方」

- ①利用者は何が必要か考えてみる
- ②制度でできるものは何か考えてみる

- ③話し合いをどう進めていくか考えてみる
- ④表現の整理を考えてみる
- ⑤事業者を理解をもとめる方法を考えてみる

Ⅲ「能力の観察」

1 「残存能力を見る」

(季節・温度・天気・時間等によって変化があるかも)

— 自立となった項目を、まず「検討」 —

- ①何が危険区域に向かっているか
- ②重要な位置づけなのか
- ③維持していくことが可能か
- ④どうすれば維持できるのか
- ⑤誰が行うのが一番妥当なのか
- ⑥時間はどうか
- ⑦場所はどこか良いのか
- ⑧経費はいくらいるのか
- ⑨本人に気持ちがあるのか
- ⑩本人を納得させることは可能か

2 「ものさしはどれか」

- (1) 社会一般の考え方による判断
- (2) 施設、事業所の判断
- (3) 個人ごとの判断

Ⅳ「聴く内容・接し方」

1 「利用者に聞く場合」

- ①あなたの今後の「夢」は
- ②今なにを望んでいますか
- ③今なにが困っていますか
- ④介護保険でなにを望みますか
- ⑤介護保険を利用するにあたって、家族の考え方は

2 「接する態度」

— 人間の尊厳を大切にすることに注意 —

- ①相手の話を真剣に聞く態度
- ②いろんな思いを根気よく聴く

- ③はっきりと制度説明を行う
- ④時間を考える（その人の時間の限度に注意）
- ⑤できれば文書を利用して説明
 - 必要と感じれば、文書を渡す
 - （メモ程度で説明する場合は、なるべく図形等を用いる）
- ⑥無理をして判らせることはしない（方法を検討）
- ⑦家族への説明を検討
- ⑧苦情相談窓口の説明
 - 事業所、保険者、国保連合会など